

質問件名 誰もがその人らしく暮らせるまちづくりについて

質問要旨

2023年1月1日現在の小平市の高齢化率は23.5%に上り、少子高齢化は着実に進んでいます。また、長引くコロナ禍による収入の減少や就職難に加え、近年の世界情勢によるエネルギーや食料の高騰の影響などを受けて、市民生活は深刻さを増しています。市は基礎自治体として、今こそ明るい未来像を描き、今も将来の姿も大切に、その実現に向けて市民が安心して暮らしていくことができる環境づくりに力を入れていくべきと考えます。

また、市長からは2023年度予算編成に当たっての施政方針のなかで、コロナ禍で「人と人の直接的なふれあい、つながりの大切さに改めて気づかされた」との言葉がありました。さらに小平市第四次長期総合計画に掲げた目指す将来像は「つながり、共に創るまちこだいら」とされています。市と市民、また市民同士が、出会いつながり対話を重ねていくことによってともにまちをつくっていく、という決意と覚悟を語られたものと受け取っています。

私たち生活者ネットワークは、かねてより人口減少社会を見据え、それをマイナスとしてだけ捉えるのではなく目の前の課題解決はもちろん将来を見通した持続可能で魅力的なまちづくりへの転換期として考えていく必要性を訴えてきました。大きな商業地にも近く通勤・通学などの利便性に富みつつも農地や緑道などみどりを多く擁する小平市の良さを生かしつつ、活発な市民活動など市民の力が十分に発揮できる環境をつくり、誰もがいきいきとその人らしく暮らすことができるまちづくりを実現していくために以下質問をいたします。

1 自治・分権を根幹に据えた市政運営について

市長が掲げる87の政策の81番には「自治・分権を根幹に据えた市政運営をします」と明記されています。自治・分権の考え方を市はどのように市政運営に生かしていますか。成果と課題をお示しください。

2 男女共同参画の推進について

2022年3月に小平アクティブプラン21の第四次策定を機に「男女共同参画宣言都市こだいら」を宣言しました。男女共同参画を推進する理由をどう捉え、小平市がどのような市になることを理想として描いていますか。

3 持続可能なまちづくりへの対応について

2022年2月に小平市ではゼロカーボンシティ宣言を行いました。それを受け、小平市域の脱炭素化に向けた調査を行い報告書が提出されました。この報告を受け、どのように取り組んでいくのかお示しください。

4 高齢化社会における移動困難者への対応について

高齢化率は他市に比べて緩やかではありますが、小平市でも着実に高齢化の波は押し寄せています。高齢者に限ることはありませんが、日々の暮らしのなかで買い物や通院、市民活動や移動に課題や困難を抱える市民への対応は急務です。これまでの市の課題を整理しつつ地域公共交通の基本方針の策定も行われる予定ですが、現在課題を抱える南西部地域に限らず、市内全体の公共交通の整備をどのように進めていくか、見解を伺います。

5 子どもの権利を保障する学校教育やまちづくりについて

不登校やいじめが増加するなか、子どもの権利を保障することを改めて市が表明することは、子どもたちに大きな安心感をもたらします。学校教育、子ども・子育て施策に子どもの権利を保障する視点をどう生かしていきますか。

6 学校という場の在り方について

コロナ禍を通して不登校やいじめの件数が増加するなかで、学校という場の意義が問われています。GIGAスクールや特別支援教育の充実化をはかることにより、個別最適な学びという名のもとに、各自がそれぞれの進捗状況で学びを進めていけるのは一見とても素晴らしいようにも思える一方で、障がいの有無やお互いの特徴や価値観の違いを超えて、ともに学ぶこと、ともに育っていくことの意義を子どもたちに感じてもらえるような学校づくりという視点も非常に重要です。改めて、多様な子どもたちが交わって育つためのインクルーシブ教育について、どのように進めていこうとしているか、市の見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和 5 年 2 月 15 日 小平市議会議長 殿

会 派 名 生活者 ネットワーク

受付番号【 】 - (/)

代表質問議員氏名 山浦 まゆみ

整理番号(通しNo.) … … ()